

愛知川町史の目指すもの

愛知川町教育委員会 町史編さん室

室長 渡部 幹雄

現在の愛知川町は昭和三〇年（一九五五）に旧豊国村と旧愛知川町が合併して誕生した。以来、半世紀を迎えようとしている。今、平成の大合併と言われる市町村合併の全国的な動きの中で、滋賀県下では、それに呼応して自治体史編さん事業が目白押しである。

愛知川町でも合併の動きが町史編さん事業を強力に後押ししていることも事実であるが、新町発足五〇周年の節目の記念事業としての意味合いも強い。愛知川町では昭和三〇年の合併以前の旧豊国村、旧愛知川町・旧愛知川村まで遡っても自治体史編さんの経験をしていない。従って、新町発足五〇周年のタイミングに自治体史編さん事業が取り上げられたのは自然の成り行きでもあった。これらに加え埋蔵文化財等の専門職員の採用及び採用以来の専門的業務の蓄積も見逃せない。平成一三年（二〇〇一）一二月に愛知川町史編さん室が設置されて編さん事業が開始され現在に至っている。

自治体史編さん事業は、地元の郷土史家が中心になって刊行する例、大学の教官等に編集執筆を依頼する例、業者に委託する例、職員が中心になって刊行する例、の四例に大別される。従来、の例が多く見られたが、近年滋賀県下では、の例が大勢を占めている。愛知川町でも、からの転換が町史編さん室の設置と同時に確認された。

自治体史編さん事業には一般公共建築土木事業と共通する点がある。それは、それぞれの成果品が単なる装飾品となる可能性を秘めている点である。ハコモノ仕事と批判されるのは完成品の活用の展開が不充分であることに起因している。内容が難解で専門的であるために完成した自治体史が住民から批判されることは他の事業に比して極めて少ない。同じ自治体の他のハコモノ仕事は身近で評価

